



日本触媒

2024年3月期(FY2023) 第2四半期決算説明会資料

2023年11月9日

代表取締役社長 野田 和宏

I. 2023年度 上期実績・通期予想

II. 事業概況と今後の取組み

用語解説	
AA	アクリル酸
AES	アクリル酸エステル
SAP	高吸水性樹脂
EO	酸化エチレン
EG	エチレングリコール
VEEA [®]	異種重合性モノマー

I. 2023年度 上期実績・通期予想

■ 上期

■ 売上収益

原料価格の下落などにより販売価格が低下したことや販売数量の減少により、対前年減収

■ 営業利益

海上輸送費の下落などにより販管費が減少したが、加工費(在庫評価差額の影響、製造固定費など)の増加や、アクリル酸エステル等のスプレッド縮小により、対前年減益

■ 通期

■ 売上収益

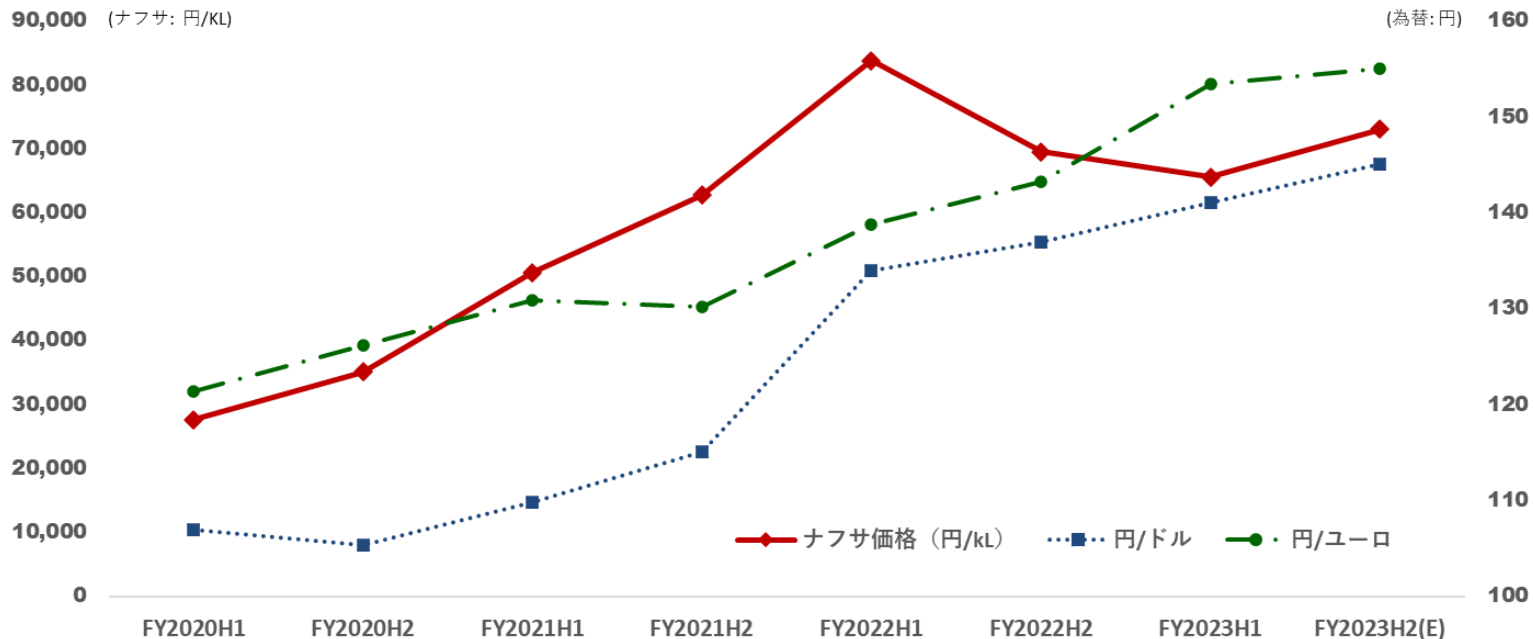
販売数量は下期に回復を見込むが、前年度に比べて原料価格が下落することから販売価格が低下するため減収を見込む

■ 営業利益

海上輸送費の下落などにより販管費が減少するが、加工費(在庫評価差額の影響、製造固定費など)の増加や、アクリル酸エステルの市況低迷などにより、前年度比減益を見込む

国産ナフサ・為替推移

	FY2020H1	FY2020H2	FY2021H1	FY2021H2	FY2022H1	FY2022H2	FY2023H1	FY2023H2(E)
ナフサ価格 (円/KL)	27,600	35,100	50,600	62,700	83,800	69,500	65,600	73,000
円/ドル	107	105	110	115	134	137	141	145
円/ユーロ	121	126	131	130	139	143	153	155



上期：業績サマリー（対前年比較）

(億円)	FY2022	FY2023	増減	
	上期実績	上期実績	増減	率
売上収益	2,197	1,943	▲ 254	▲11.5%
営業利益	173	100	▲ 73	▲42.3%
(利益率)	7.9%	5.1%	-	-
持分法による投資損益	17	▲ 4	▲ 21	-
税引前四半期利益	202	98	▲ 104	▲51.6%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	141	69	▲ 72	▲51.2%
ROE	7.9%	3.7%	▲4.2p	-
ROA	7.6%	3.7%	▲3.9p	-
ナフサ価格 (円/kL)	83,800	65,600	▲ 18,200	▲21.7%
円/ドル	134	141	7	5.3%
円/ユーロ	139	153	15	10.6%

上期：セグメント別売上収益・営業利益

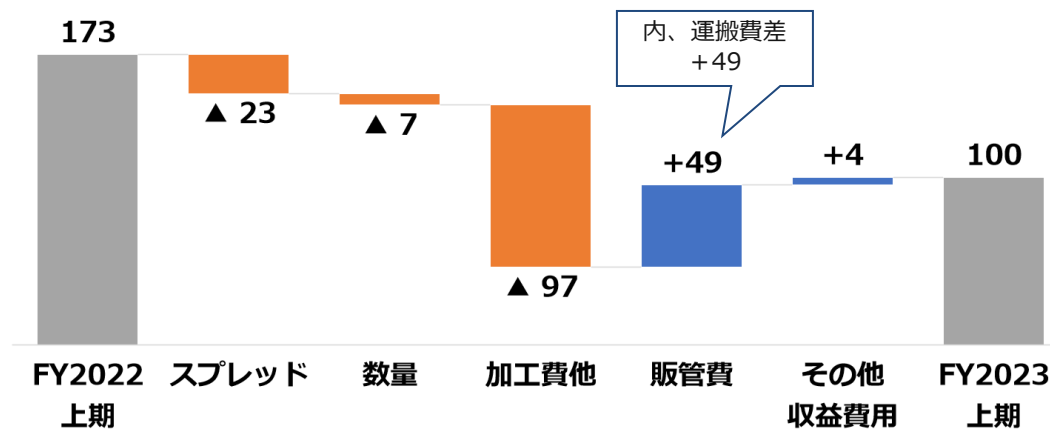
市場領域	FY2022	FY2023			売上収益増減要因 (億円)	
	上期実績	上期実績	増減	増減率	数量差	単価差
AA・SAP	1,231	1,071	▲ 159	▲13.0%	(-)	(-)
ベーシックマテリアルズ他	375	353	▲ 22	▲5.9%	(-)	(+)
マテリアルズ事業 合計	1,605	1,424	▲ 181	▲11.3%		
インダストリアル・ハウスホールド	461	385	▲ 75	▲16.4%	(-)	(-)
エナジー・エレクトロニクス	113	122	9	7.7%	(+)	(-)
その他	17	12	▲ 6	▲31.7%	(+)	(-)
ソリューションズ事業 合計	591	519	▲ 72	▲12.2%		
売上収益 合計	2,197	1,943	▲ 254	▲11.5%		
マテリアルズ 事業	141	83	▲ 58	▲41.2%		
ソリューションズ 事業	26	10	▲ 16	▲62.3%		
消去	6	7	1	16.7%		
営業利益 合計	173	100	▲ 73	▲42.3%		

(+) 数量差増・単価差増
 (-) 数量差減・単価差減

上期：営業利益増減分析（全社）

海上輸送費の下落などにより販管費等が減少したが、加工費(在庫評価差額の影響、製造固定費など)の増加やアクリル酸エステルのスプレッド縮小などで 対前年減益

(億円)	営業利益		利益差	(内訳)			数量	加工費他		販管費	その他 収益費用
	FY2022 上期	FY2023 上期		スプレッド	売価	変動費		在庫評価			
全社	173	100	▲ 73	▲ 23	▲ 224	+201	▲ 7	▲ 97	▲ 84	+49	+4

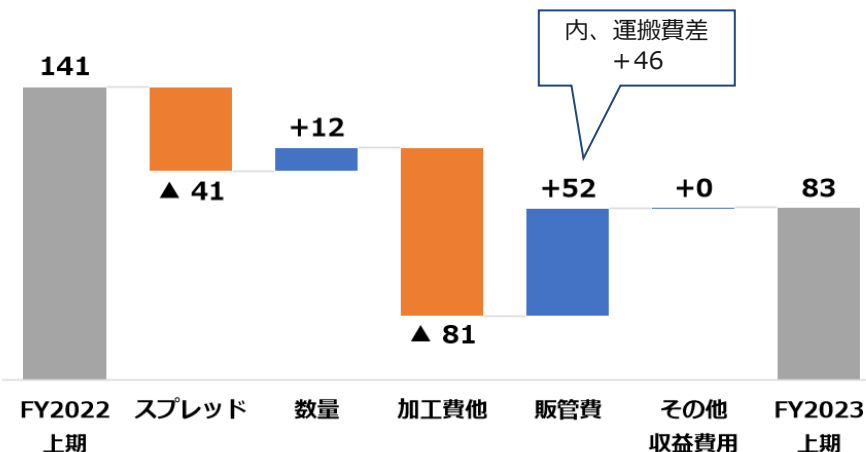


上期：営業利益増減分析（マテリアルズ）

(億円)	営業利益		利益差
	FY2022	FY2023	
	上期	上期	
マテリアルズ	141	83	▲ 58

(内訳)

スプレッド			数量	加工費他		販管費	その他 収益費用
▲	▲	+/-		▲	▲		
▲	▲	+/-					
▲ 41	▲ 226	+185	+12	▲ 81	▲ 70	+52	+0



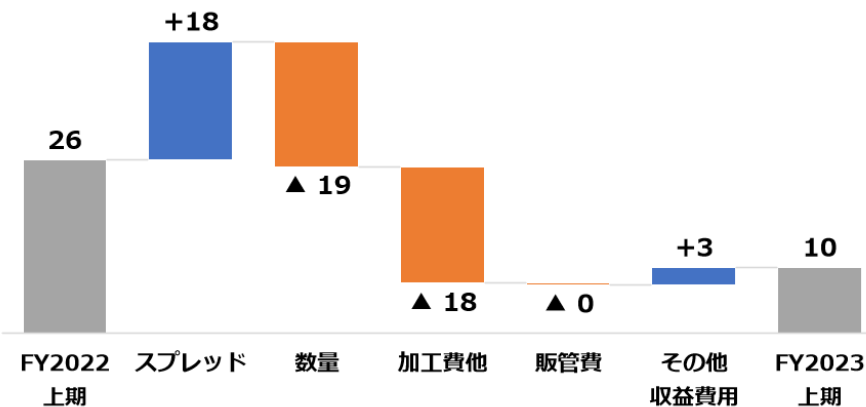
スプレッド	<ul style="list-style-type: none"> AA・AES：製品海外市況の軟化が続き、スプレッド縮小 SAP：原料価格下落によりスプレッド拡大
数量	<ul style="list-style-type: none"> AA・AES、SAPいずれも、ほぼ前年同期並みの数量を維持
加工費 販管費他	<ul style="list-style-type: none"> 在庫評価差のマイナスやインドネシアの償却費の増加など 海上輸送費（運搬費）の下落により販管費が減少

上期：営業利益増減分析（ソリューションズ）

(億円)	営業利益		利益差
	FY2022	FY2023	
	上期	上期	
ソリューションズ	26	10	▲ 16

(内訳)

スプレッド		数量	加工費他		販管費	その他 収益費用	
売価	変動費		在庫評価				
+18	+2	+16	▲ 19	▲ 18	▲ 13	▲ 0	+3



スプレッド

- ・ インダストリアル・ハウスホールド：原料価格下落によりスプレッドが拡大

数量

- ・ インダストリアル・ハウスホールド：インフラ住宅や生活用品向けの需要が低迷し数量減少

加工費 販管費他

- ・ その他収益費用
固定資産(土地)売却益を計上
電池材料の欧州合併検討費用を計上

通期：業績サマリー（対前年比較）

(億円)	FY2022	FY2023	増減	
	通期実績	通期予想	増減	率
売上収益	4,196	3,900	▲ 296	▲7.0%
営業利益	235	155	▲ 80	▲34.1%
(利益率)	5.6%	4.0%	-	-
持分法による投資損益	19	▲ 7	▲ 26	-
税引前利益	262	150	▲ 112	▲42.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	194	105	▲ 89	▲45.9%
ROE	5.5%	2.8%	▲2.7p	-
ROA	5.0%	2.8%	▲2.2p	-
ナフサ価格 (円/kL)	76,600	69,300	▲ 7,300	▲9.5%
円/ドル	135	143	8	5.6%
円/ユーロ	141	154	13	9.4%

通期：セグメント別売上収益・営業利益

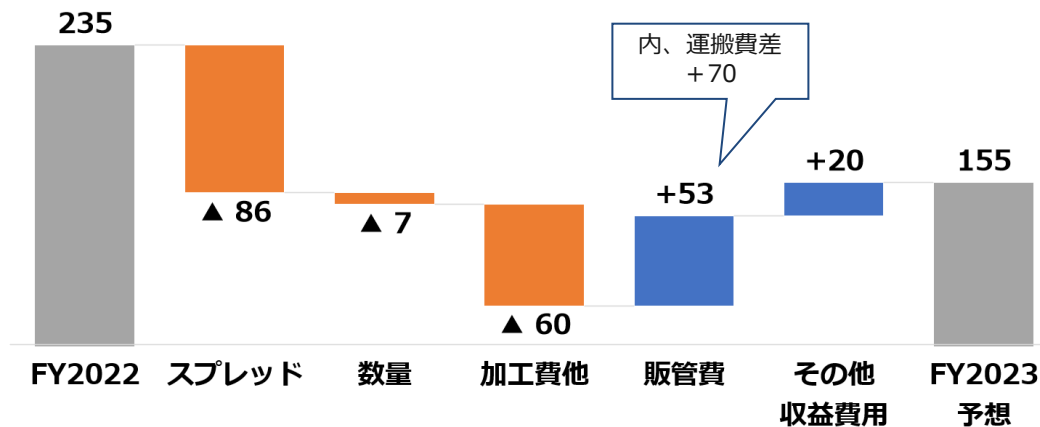
市場領域	FY2022	FY2023				売上収益増減要因 (億円)	
	通期実績	下期予想	通期予想	増減	増減率	数量差	単価差
AA・SAP	2,321	1,034	2,105	▲ 216	▲9.3%	(+)	(-)
ベーシックマテリアルズ他	736	322	675	▲ 61	▲8.3%	(-)	(-)
マテリアルズ事業 合計	3,057	1,356	2,780	▲ 277	▲9.1%		
インダストリアル・ハウスホールド	888	421	807	▲ 81	▲9.1%	(-)	(-)
エナジー・エレクトロニクス	222	156	278	56	25.2%	(+)	(-)
その他	29	24	36	6	20.5%	(-)	(+)
ソリューションズ事業 合計	1,139	601	1,120	▲ 19	▲1.7%		
売上収益 合計	4,196	1,957	3,900	▲ 296	▲7.0%		
マテリアルズ 事業	209	37	120	▲ 89	▲42.7%		
ソリューションズ 事業	15	14	24	9	59.7%		
消去	11	4	11	0	2.2%		
営業利益 合計	235	55	155	▲ 80	▲34.1%		

(+) 数量差増・単価差増
 (-) 数量差減・単価差減

通期：営業利益増減分析（全社）

販管費等が減少するが、加工費の増加(在庫評価差額の影響、製造固定費など)やアクリル酸エステル等の市況低迷によるスプレッド縮小などで 対前年減益を見込む

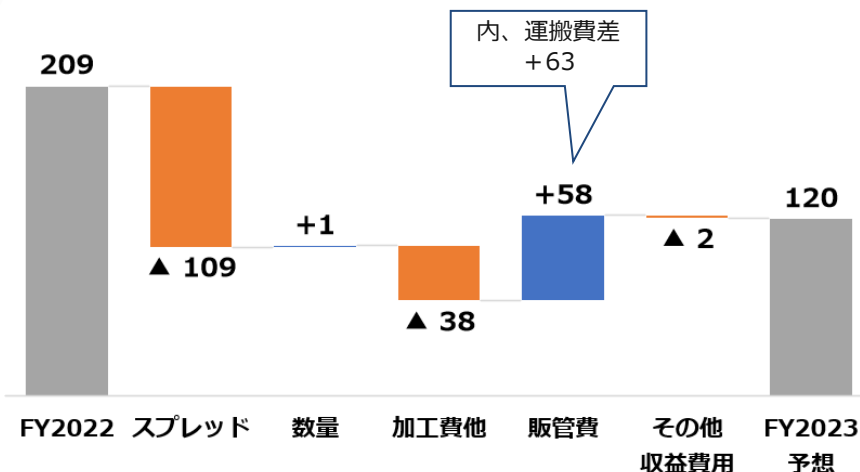
(億円)	営業利益		利益差	(内訳)			数量	加工費他	販管費	その他 収益費用	
	FY2022	FY2023 予想		スプレッド	変動費	在庫評価					
全社	235	155	▲ 80	▲ 86	▲ 349	+263	▲ 7	▲ 60	▲ 41	+53	+20



通期：営業利益増減分析（マテリアルズ）

(内訳)

(億円)	営業利益		利益差	スプレッド			数量	加工費他		販管費	その他 収益費用
	FY2022	FY2023 予想		売価	変動費	在庫評価					
マテリアルズ	209	120	▲ 89	▲ 109	▲ 343	+234	+1	▲ 38	▲ 28	+58	▲ 2



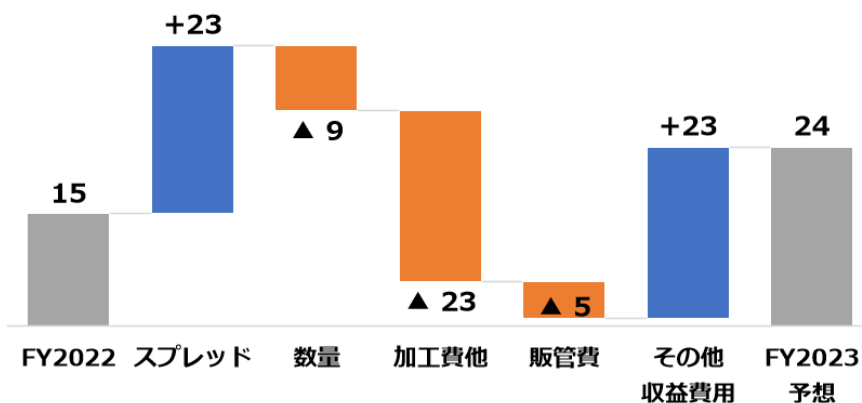
スプレッド	<ul style="list-style-type: none"> AA・AES：海外市況の低迷によりスプレッド縮小 SAP：上期にスプレッドが拡大したが、下期の市況軟化により通期では前年度並み
数量	<ul style="list-style-type: none"> AA・AES：ほぼ前年度並みの数量を維持 SAP：国内と新興国の需要の取り込みにより数量増加 プロセス触媒は交換需要の狭間で数量減
加工費 販管費他	<ul style="list-style-type: none"> 在庫評価差のマイナスやインドネシアの償却費の増加などにより加工費が増加 海上輸送費（運搬費）の下落により販管費が減少

通期：営業利益増減分析（ソリューションズ）

(億円)	営業利益		利益差
	FY2022	FY2023 予想	
ソリューションズ	15	24	+9

(内訳)

スプレッド	数量		加工費他	販管費	その他 収益費用		
	売価	変動費					
+23	▲ 6	+29	▲ 9	▲ 23	▲ 13	▲ 5	+23



スプレッド	<ul style="list-style-type: none"> ・ インダストリアル・ハウスホールド：原料価格下落や円安の進行などによりスプレッド拡大
数量	<ul style="list-style-type: none"> ・ インダストリアル・ハウスホールド：生活用品向けの需要が低迷し、数量減少 ・ エナジー・エレクトロニクス：ディスプレイ関連需要の回復を見込み数量増
加工費 販管費他	<ul style="list-style-type: none"> ・ その他収益費用 前年度の固定資産減損（電子情報材料）分の差異

株主還元の基本方針として、総還元性向50%を目指す

当期の年間配当を180円とした場合の配当性向は約67%となる予定

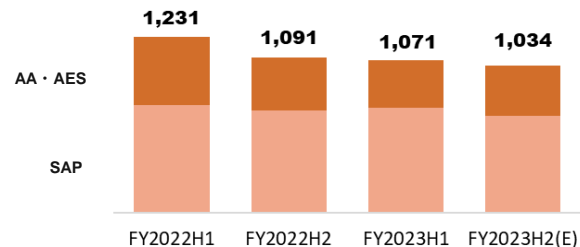
また、自己株式を40億円取得した結果、総還元性向は104.5%となる見通し

	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023 (予想)
一株当たり年間配当額 (円)	180	90	180	180	180
一株当たり当期純利益 (円)	278.21	▲ 273.33	594.86	488.29	268.91
配当性向 (%)	64.7	-	30.3	36.9	66.9
配当額 (億円)	72	36	72	71	70
自己株式取得額 (億円)	0	0	0	30	40
総還元額 (億円)	72	36	72	101	110
当期純利益 (億円)	111	▲ 109	237	194	105
総還元性向 (%)	64.7	-	30.3	52.2	104.5

Ⅱ. 事業概況と今後の取組み

市場領域		主な製品
AA・SAP	■ AA・AES	・アクリル酸 ・アクリル酸エステル他
	■ SAP	・高吸水性樹脂

売上構成・売上収益（億円）

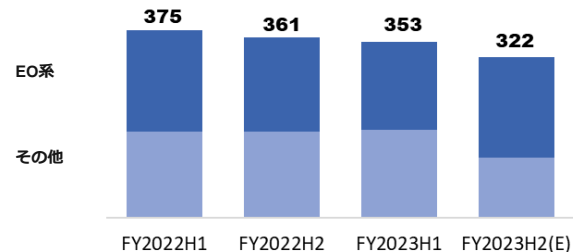


市場領域	市場環境	当社の上期状況(対前年)	今後の取組み
AA・AES	<ul style="list-style-type: none"> 中国景気後退によりアジア市況軟化 国内需要は下期以降回復を見込むが、海外需要の回復には時間を要する見通し 	<ul style="list-style-type: none"> 海外市況下落によるスプレッド悪化 景気後退に伴う世界的な需要減により販売数量減 	<ul style="list-style-type: none"> ◆短期 <ul style="list-style-type: none"> グループ全体の生産最適化 インドや東南アジアの需要の取込み ◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> 安定的な販売先確保およびコスト削減策の実行
SAP	<ul style="list-style-type: none"> 新興国の子供向けおむつ需要が伸長する一方、インフレの影響等により世界需要は微増にとどまる見込み 	<ul style="list-style-type: none"> 新興国での拡販や国内市場でのシェアアップにより数量増 	<ul style="list-style-type: none"> ◆短期 <ul style="list-style-type: none"> 新興国の市場成長に合わせた需要の取込み コスト削減による収益性向上 ◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> 中長期的な需要増加に向けた供給体制の検討

事業の状況【ベーシックマテリアルズ他】

市場領域		主な製品
ベーシック マテリアルズ他	■ EO系	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化エチレン(EO) ・エチレングリコール(EG) ・エタノールアミン(EA)
	■ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊エステル ・プロセス触媒

売上構成・売上収益（億円）

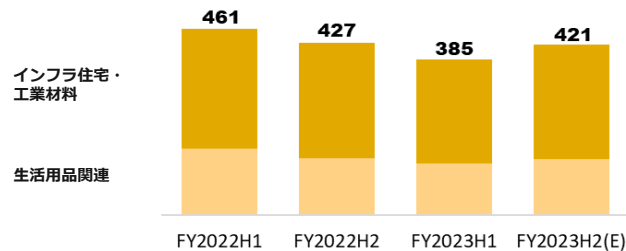


市場領域	市場環境	当社の上期状況(対前年)	今後の取組み
ベーシック マテリアルズ他	<p>【EO系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界的なEG需給バランスの軟化が続く 	<p>【EO系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原燃料や修繕費の上昇に伴う価格転嫁を実施 ・市況低迷によりEG輸出停止継続 	<p>【EO系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆短期 <ul style="list-style-type: none"> ・国内最大のEOメーカーとして、安定供給体制を維持 ◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> ・川上・川下・同業他社とのベストなアライアンス検討

事業の状況【インダストリアル・ハウスホールド①】

市場領域	主な製品
インダストリアル・ハウスホールド	■ インフラ住宅・工業材料 <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート混和剤用ポリマー ・アクリル樹脂 ・各種アミン類（エチレンイミン他）
	■ 生活用品関連 <ul style="list-style-type: none"> ・ポリカルボン酸系ポリマー ・セカンダリーアルコールエトキシレート

売上構成・売上収益（億円）

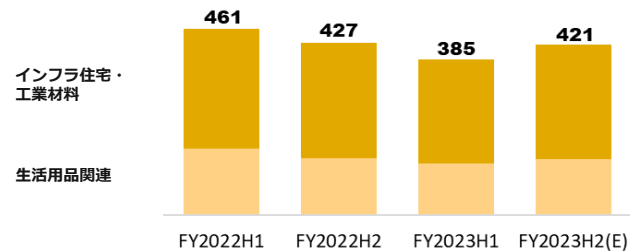


市場領域	市場環境	当社の上期状況(対前年)	今後の取組み
インフラ住宅・工業材料	【インフラ住宅】 <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート関連の世界需要は伸長。国内需要は漸減続く ・国内リフォーム需要は堅調 【工業材料】 <ul style="list-style-type: none"> ・CO2回収システムで各種アミンが脚光 	【インフラ住宅】 <ul style="list-style-type: none"> ・混和剤用ポリマーは海外市場で中国・韓国品との競合により数量減 ・塗料用アクリル樹脂はリフォーム向けで堅調、新築の減少により窯業建材向け数量減 【工業材料】 <ul style="list-style-type: none"> ・エチレンイミンは欧米での需要低調の影響を受け数量減 	◆短期 <ul style="list-style-type: none"> 【インフラ住宅】 <ul style="list-style-type: none"> ・国内向けは、原料価格等の上昇に伴う価格は正 【工業材料】 <ul style="list-style-type: none"> ・アミン類を用いたCO2吸収用途の開発に注力（中長期を含む） ◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> 【インフラ住宅】 <ul style="list-style-type: none"> ・汎用品から高付加価値品へのシフト ・CO2削減コンクリートをはじめとする環境対応製品に注力

事業の状況【インダストリアル・ハウスホールド②】

市場領域		主な製品
インダストリアル・ ハウスホールド	■ インフラ住宅・ 工業材料	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート混和剤用ポリマー ・アクリル樹脂 ・各種アミン類（エチレンイミン他）
	■ 生活用品関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリカルボン酸系ポリマー ・セカンダリーアルコールエトキシレート

売上構成・売上収益（億円）

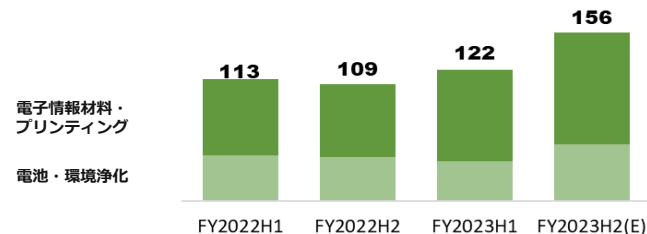


市場領域	市場環境	当社の上期状況(対前年)	今後の取組み
生活用品関連	<ul style="list-style-type: none"> ・洗剤分野は、中国景気低迷により販売数量減 ・インフレに伴う節約志向により、低価格帯にシフトする傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値製品で使用される当社製品の販売数量減 ・海外市場において競合との価格競争激化により販売数量減 	<ul style="list-style-type: none"> ◆短期 <ul style="list-style-type: none"> ・原料価格等の上昇に伴う価格是正 ◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> ・需要に見合った生産体制の最適化 ・新規高機能製品・環境対応製品(バイオ原料・生分解)に注力

事業の状況【エネルギー・エレクトロニクス①】



市場領域		主な製品
エネルギー・ エレクトロニクス	■ 電子情報材料・ プリンティング	<ul style="list-style-type: none"> ・アクリビュア[®] ・レジスト材料 ・微粒子 ・VEEA[®]
	■ 電池・ 環境浄化	<ul style="list-style-type: none"> ・イオネル[®] ・燃料電池材料 ・環境触媒 ・自動車触媒

売上構成・売上収益（億円）

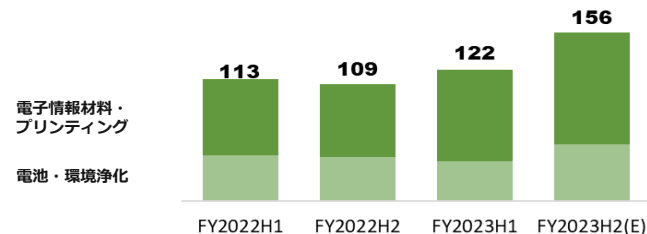


市場領域	市場環境	当社の上期状況(対前年)	今後の取組み
電子情報材料・ プリンティング	<ul style="list-style-type: none"> ・大型TV向け液晶パネル用素材の需要が回復基調、本格回復は24年度以降を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的な需要回復により、液晶パネル関連製品の販売数量増 	<ul style="list-style-type: none"> ◆短期 <ul style="list-style-type: none"> ・液晶パネル産業の中国シフトに対応した拡販 ・高付加価値製品の拡販 ◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代ディスプレイ向けの新規製品開発 ・電材向けなど高付加価値プリンティング用途への展開 ・3Dプリンター向け材料の開発推進

事業の状況【エネルギー・エレクトロニクス②】

市場領域		主な製品
エネルギー・エレクトロニクス	 電子情報材料・プリンティング	・アクリビュア® ・レジスト材料 ・微粒子 ・VEEA®
	 電池・環境浄化	・イオネル® ・燃料電池材料 ・環境触媒 ・自動車触媒

売上構成・売上収益（億円）



市場領域	市場環境	当社の上期状況(対前年)	今後の取組み
電池・環境浄化	【電池】 <LIB> ・欧州では中韓メーカーが進出 一部電池メーカーの米国シフト ・中国はEV販売堅調も、景気後退によりLIB市場は競争激化 【環境浄化】 ・環境触媒市場(脱硝、ダイオキシン分解)は堅調 ・CO2排出の少ない排ガス処理・排水処理触媒のニーズが高まる	【電池】 ・イオネル：中国JVが稼働し販売を開始、米国市場向けにプレマーケティング販売 【環境浄化】 ・脱硝触媒および触燃触媒の販売数量が減少	◆短期 【電池】 ・イオネル：日欧米へ販路拡大、欧州JV検討を中断し、米国・日本の立地を検討 【環境浄化】 ・排水処理触媒、触燃触媒の販売強化 ◆中長期 【電池】 ・イオネル：地産地消の戦略に沿った生産体制構築と差別化技術の確立 【環境浄化】 ・GX関連製品の開発・投入

市場領域	主な製品	市場環境	当社の上期状況(対前年)	今後の取組み
健康・医療	<ul style="list-style-type: none"> ・中分子原薬 ・HDO (ヘテロ二本鎖核酸)/DDSポリマー 	<ul style="list-style-type: none"> ・核酸医薬市場が急成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・探索/非臨床案件の受託数が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ◆短期 <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの強化 ◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> ・中量規模の受託案件の取込み
化粧品	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能性ポリマー ・エマルションポリマー ・リポソーム ・天然由来製品 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍からの脱却による市場回復 ・天然由来素材へのニーズの高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・当社開発品の採用や引き合いが加速 	<ul style="list-style-type: none"> ◆短期 <ul style="list-style-type: none"> ・市場開拓・採用促進 ・新規製品の上市促進 ◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> ・天然由来/環境にやさしい素材開発の強化 ・提携/協業
事業創出	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ水電解セパレータ ・アンモニア分解触媒 ・海水淡水化向け浸透圧発生剤 	<ul style="list-style-type: none"> ・水素・アンモニア利用検討が加速 ・海水淡水化・排水処理技術へのニーズの高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ水電解用セパレータのサンプル引き合いが増加 ・アンモニア分解触媒の開発・事業化に向けた取組みが進捗 	<ul style="list-style-type: none"> ◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ水電解用セパレータの大型化対応 ・アンモニア分解触媒は、各社との共同開発を推進 ・浸透圧発生材は、石油掘削などの排水処理用途への展開

目標	2021年度実績	2022年度実績	2023年度予想	2024年度 中期経営計画	2030年の 目指す姿
営業利益	291億円	235億円	155億円	330億円	600億円規模
ソリューションズ事業 営業利益	78億円	15億円	24億円	170億円	400億円規模
ROE	7.2%	5.5%	2.8%	7.5%	9%以上
ROA	6.8%	5.0%	2.8%	6.9%	9%以上
総還元性向	30.3%	52.2%	104.5%	50%	-
新規製品売上収益 (単体・SAP除く・5年以内上市)	109億円	171億円	148億円	280億円	-
成長投資および 競争力維持投資	-	232億円	478億円 (FY2022-2023累計)	1,200億円 (FY2022-2024累計)	4,000億円 (FY2022-2030累計)
CO ₂ 排出量削減 (2014年度比・国内・Scope1&2)	2%削減	14%削減*	-	-	30%削減
環境貢献製品売上収益	390億円	440億円	-	550億円	1,350億円
事務系・化学系女性採用比率	23.3%	24.1%	32.3%	30%	-
女性基幹職比率	4.1%	4.4%	5.2%	6%	-
男性の育児休職取得率 ※1日以上→15日以上に変更	4.1%	36.4%	84.8%	100% ※目標変更	-

(*カーボンクレジット 7.5%含む)

参考資料

上期業績（8月7日予想値との比較）

(億円)	FY2023	FY2023	増減	
	上期 8/7予想値	上期 実績	増減	率
売上収益	1,900	1,943	43	2.3%
営業利益	100	100	0	0.1%
(利益率)	5.3%	5.1%	-	-
持分法による投資損益	▲ 1	▲ 4	▲ 2	-
税引前四半期利益	105	98	▲ 7	▲6.8%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	70	69	▲ 1	▲2.0%
ROE	3.8%	3.7%	▲0.1p	-
ROA	4.0%	3.7%	▲0.3p	-
ナフサ価格（円/kL）	62,800	65,600	2,800	4.5%
円/ドル	136	141	5	3.5%
円/ユーロ	150	153	4	2.4%

連結財政状態計算書

(億円)

	2023年 3月末	2023年 9月末	増減
現金及び現金同等物	390	498	107
営業債権	986	1,003	17
棚卸資産	861	831	▲ 29
その他	204	203	▲ 1
流動資産合計	2,441	2,534	94
有形固定資産	1,895	1,930	35
無形資産	84	88	4
持分法で会計処理されている投資	271	271	▲ 0
その他	543	581	38
非流動資産合計	2,793	2,870	77
資産合計	5,233	5,404	171

	2023年 3月末	2023年 9月末	増減
営業債務	531	600	69
借入金	509	428	▲ 81
その他	493	493	0
負債合計	1,533	1,521	▲ 12
資本金	250	250	-
自己株式	▲ 93	▲ 93	0
利益剰余金	3,019	3,054	35
その他	446	585	139
非支配持分	78	87	9
資本合計	3,700	3,883	183
負債及び資本合計	5,233	5,404	171

D/Eレシオ (倍)	0.16	0.13
有利子負債	576	493

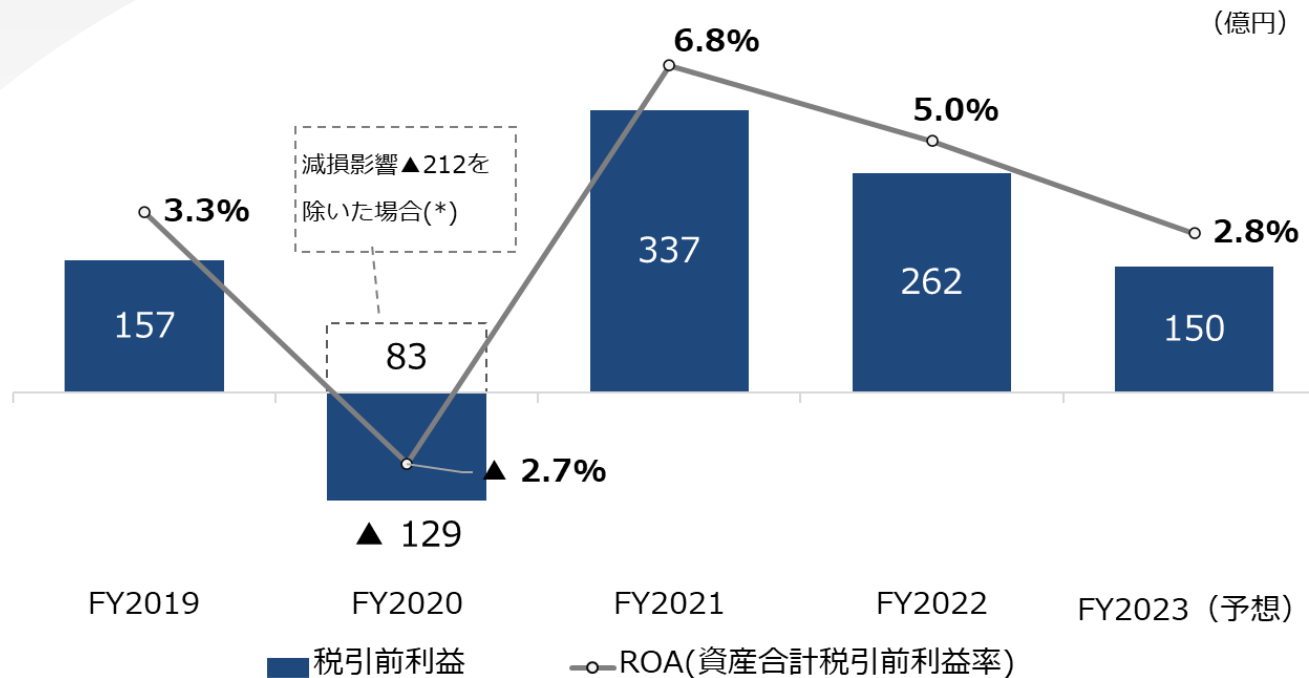
連結キャッシュ・フロー

(億円)

	FY2022 上期	FY2023 上期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	142	334	191
税引前四半期利益	202	98	▲ 104
減価償却費及び償却費	148	160	13
営業債権・債務の増減額	▲ 26	64	89
棚卸資産の増減額	▲ 104	56	160
その他	▲ 78	▲ 44	34
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 106	▲ 88	18
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 72	▲ 158	▲ 87
自己株式の取得による支出	▲ 0	▲ 0	0
借入金の増減額	▲ 17	▲ 109	▲ 92
配当金の支払額	▲ 40	▲ 35	5
その他	▲ 15	▲ 14	1
現金及び現金同等物に係る換算差額	31	20	▲ 12
現金及び現金同等物の増減額	▲ 4	107	111
現金及び現金同等物の期首残高	394	390	▲ 3
現金及び現金同等物の四半期末残高	390	498	108
フリーキャッシュ・フロー	36	246	210

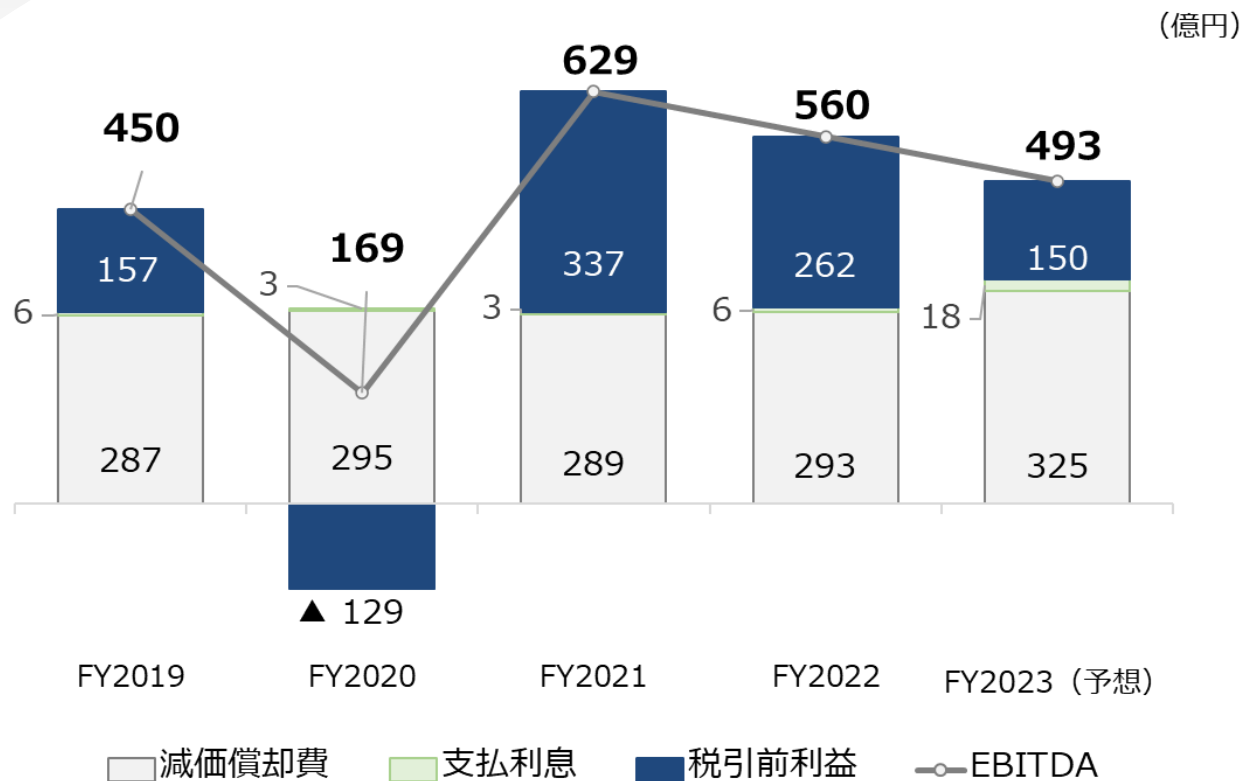
セグメント別売上収益・営業利益（上期・下期推移）

市場領域	FY2021			FY2022			FY2023		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期（予想）	通期（予想）
AA・SAP	910	1,073	1,983	1,231	1,091	2,321	1,071	1,034	2,105
ベーシックマテリアルズ他	301	345	646	375	361	736	353	322	675
マテリアルズ事業 合計	1,211	1,418	2,629	1,605	1,451	3,057	1,424	1,356	2,780
インダストリアル・ハウスホールド	380	418	798	461	427	888	385	421	807
エネルギー・エレクトロニクス	116	110	226	113	109	222	122	156	278
その他	23	18	41	17	12	29	12	24	36
ソリューションズ事業 合計	518	545	1,064	591	548	1,139	519	601	1,120
売上収益 合計	1,730	1,963	3,693	2,197	1,999	4,196	1,943	1,957	3,900
マテリアルズ 事業	95	114	209	141	68	209	83	37	120
ソリューションズ 事業	52	26	78	26	▲ 11	15	10	14	24
消去	4	▲ 2	3	6	4	11	7	4	11
営業利益 合計	152	139	291	173	62	235	100	55	155

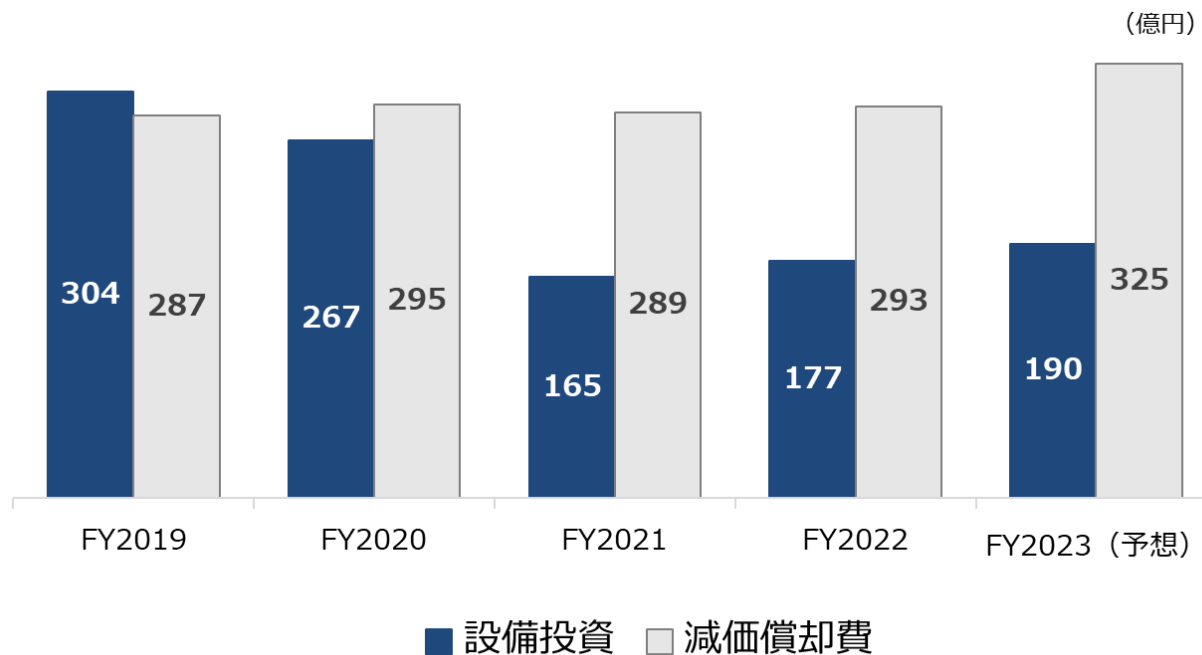


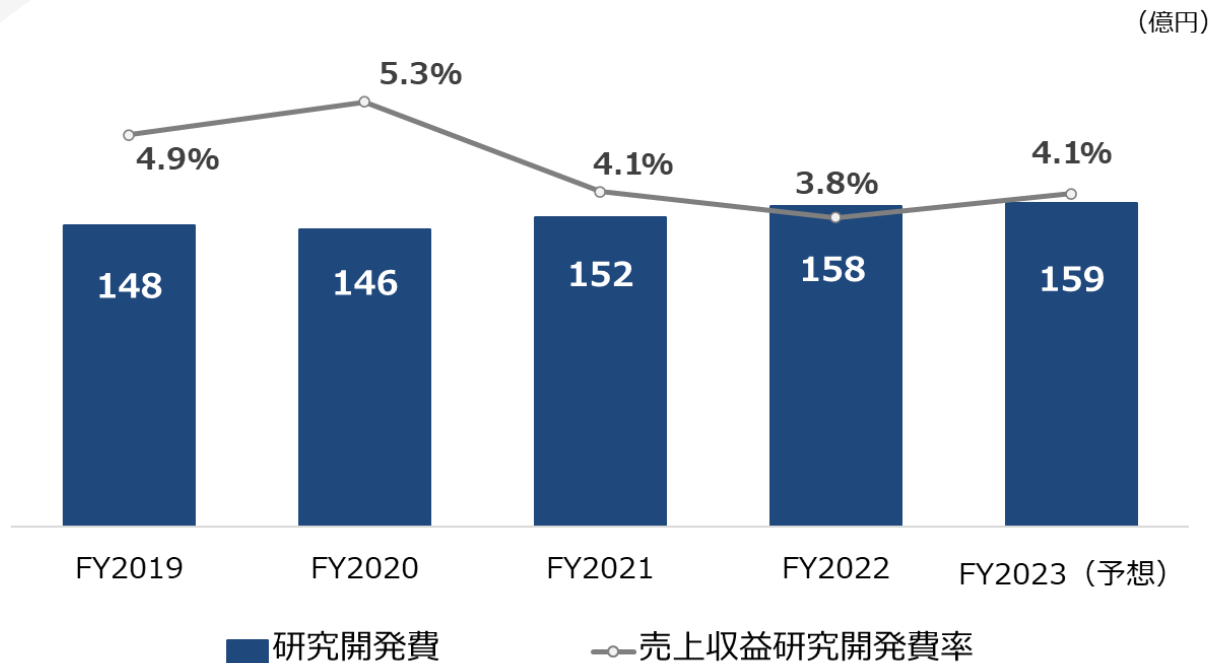
(*)2020年度に当社連結子会社ニッポンショクバイ・ヨーロッパ N.V. の固定資産及びシラス,Inc.の のれん及び無形資産の減損損失を計上しており、その影響を除いた場合の税引前利益を括弧内に示しております。

EBITDAの推移

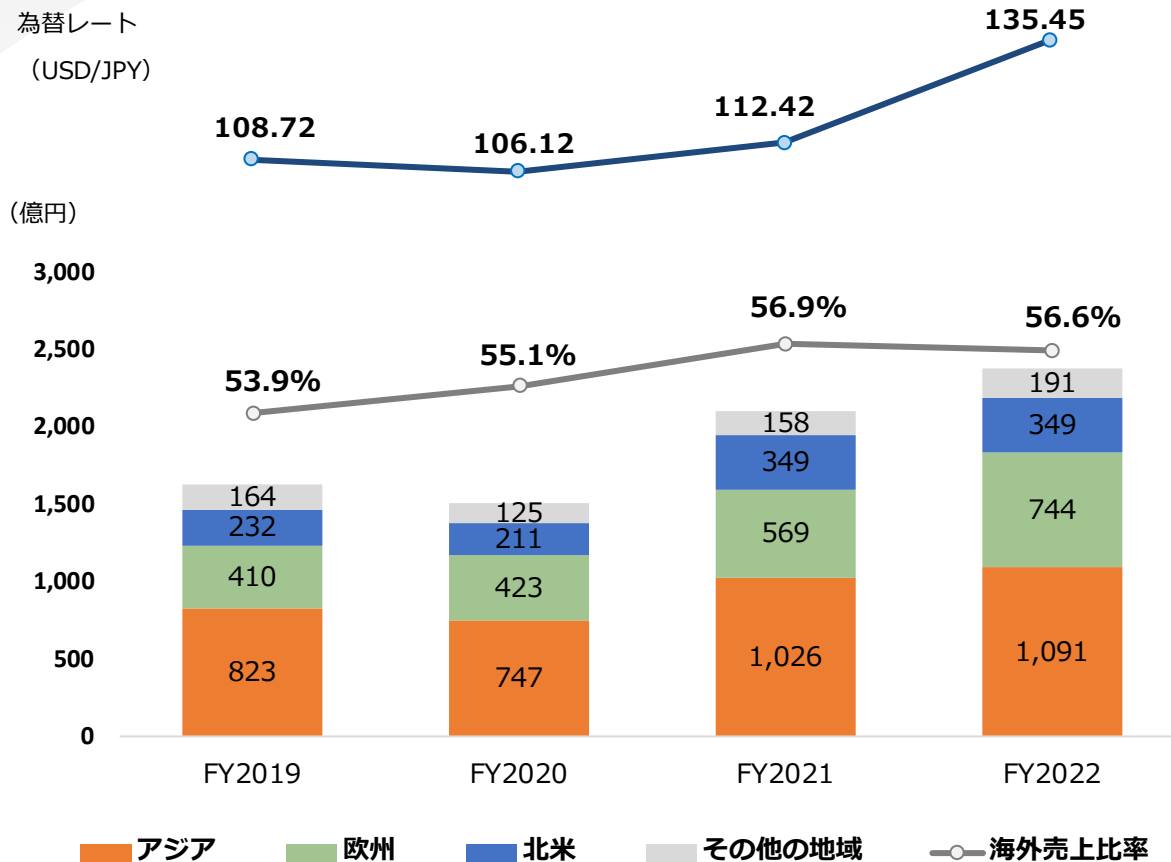


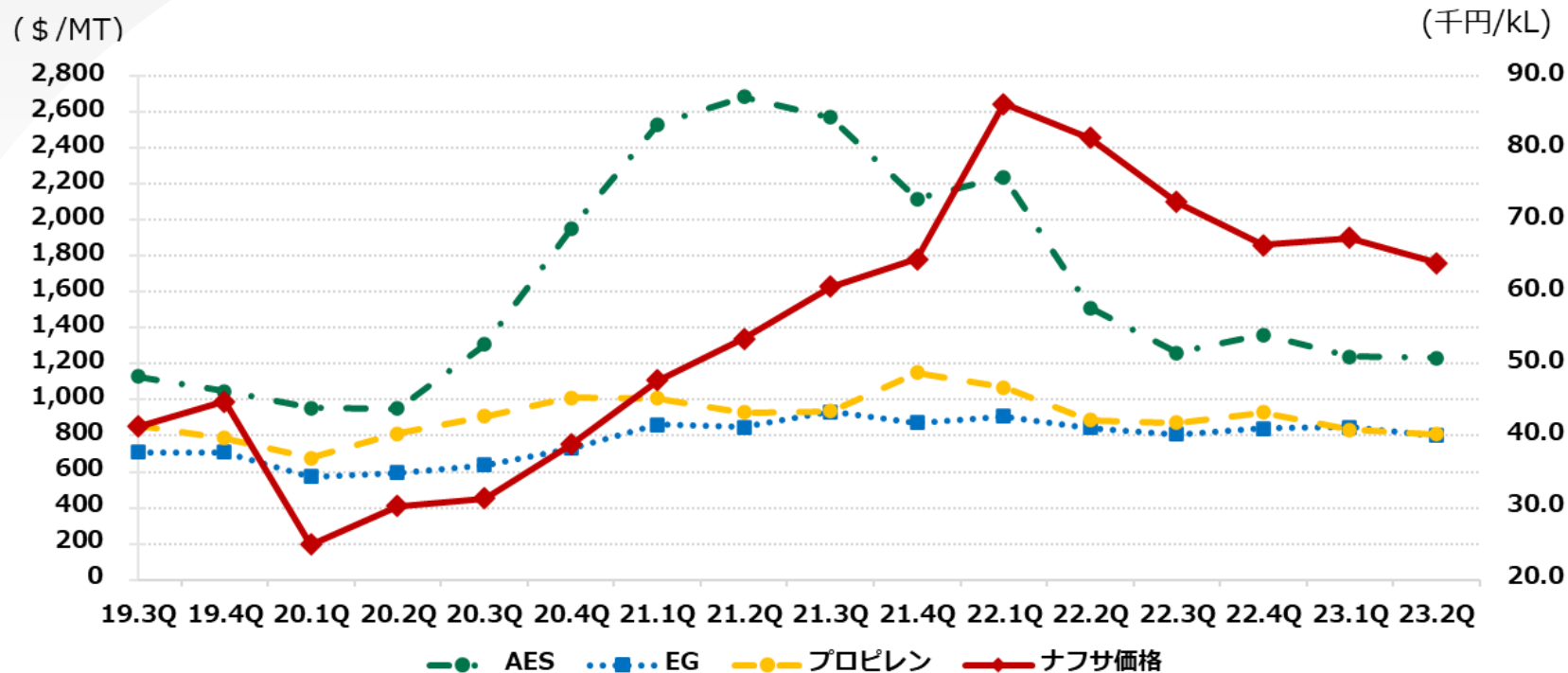
設備投資額と減価償却費の推移





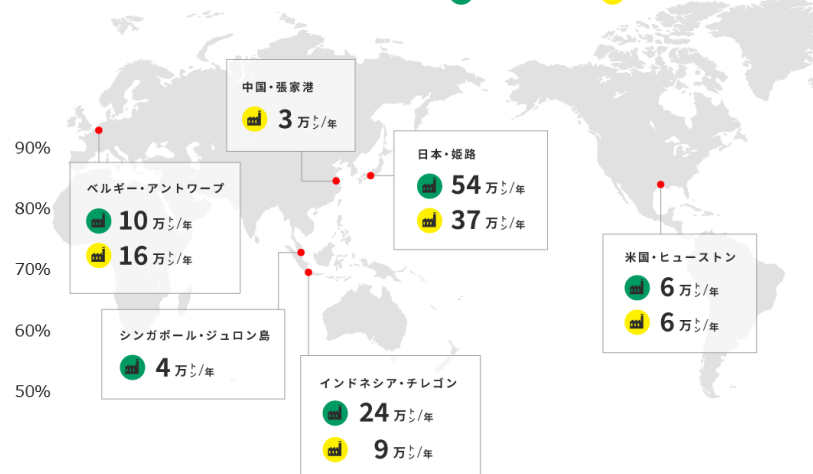
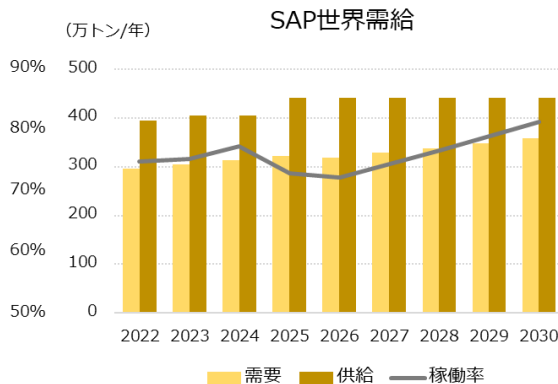
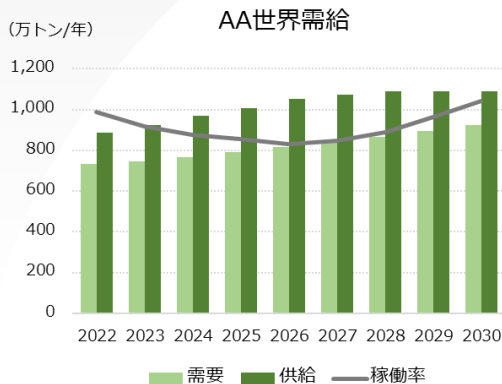
海外売上実績推移





■ 世界需要：中長期的に年率3-5%程度の成長を想定

● アクリル酸設備 ● 高吸水性樹脂設備



生産能力	日本触媒グループ						(万トン/年)
	日本	インドネシア	ベルギー	米国	シンガポール	中国	合計
アクリル酸設備	54	14 + 10	10	6	4	0	98
		2023年新設					
高吸水性樹脂設備	37	9	16	6	0	3	71

本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 コーポレート・コミュニケーション部

東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL：03-3506-7605

URL：<https://www.shokubai.co.jp>